

国立天文台の 家氏らに仁科賞

仁科記念財団

仁科記念財団は十三日、二〇〇八年度の「仁科記念賞」を、国立天文台の家正則教授(59)、東京大学の上田正仁教授(45)と早野龍五教授(56)に贈ることを決めた。同賞は物理学の分野で優れた業績を上げた研究者が対象。

授賞式は十二月五日に

東京・千代田の東京会館で開く。

家教授は、望遠鏡の感度を調節するレンズフィルターを開発、米ハワイ州のすばる望遠鏡を使い約百二十九億年前の宇宙に存在していた銀河を発見した功績が評価された。

上田教授は、物質を構成する粒子間の相互作用によって起こる現象を裏付ける理論を考案した。早野教授は、通常の物質と電氣的な性質が反対の「反物質」の質量を超高精度に測定。成果は物理学の教科書に記載される「基礎物理定数」に取り入れられた。

●早野教授ら3氏に仁科賞

仁科記念財団(東京都)は13日、優れた物理学の業績をたたえる今年の仁科記念賞を、早野龍五・東京大教授(56)、家正則・国立天文台教授(59)、上田正仁・東京大教授(45)の3氏に贈ると発表した。授賞式は12月5日に都内で開かれ、賞金各50万円が贈られる。